

## 富山市水橋

清水堂 A 遺跡

清水堂 C 遺跡

清水堂 B 遺跡

清水堂 D 遺跡

清水堂小深田遺跡

清水堂宗平邸遺跡

1996年3月

富山市教育委員会

**富山市水橋**

**清水堂 A 遺跡**

**清水堂 C 遺跡**

**清水堂 B 遺跡**

**清水堂 D 遺跡**

**清水堂小深田遺跡**

**清水堂宗平邸遺跡**

1996年3月

富山市教育委員会

# 例 言

1. 本書は、県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（清水堂地区）に伴う、富山市清水堂A遺跡、清水堂C遺跡、清水堂D遺跡、清水堂宗平邸の発掘調査、清水堂B遺跡、清水堂D遺跡、清水堂小深田遺跡の試掘調査概要である。
2. 調査は、富山県農地林務部富山農地林務事務所の依頼を受けて富山市教育委員会が実施した。調査費用の地元農家負担分については富山市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
3. 調査の期間、発掘面積、担当者は次のとおりである。
 

清水堂A遺跡	平成7年5月8日～平成7年7月21日	発掘 200㎡	鹿島、小林
清水堂C遺跡	平成7年5月8日～平成7年7月21日	発掘 250㎡	鹿島、小林
清水堂B遺跡	平成7年12月20日～平成8年1月29日	試掘 5,000㎡	鹿島
清水堂D遺跡	平成7年12月20日～平成8年1月20日	試掘 4,000㎡ 発掘600㎡	鹿島
清水堂小深田遺跡	平成7年12月23日～平成8年1月22日	試掘 4,000㎡	鹿島
清水堂宗平邸遺跡	平成7年12月23日～平成8年1月20日	発掘 50㎡	鹿島
4. 調査にあたり富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターの指導・助言を受けた。
5. 調査は、富山市教育委員会生涯学習課学芸員鹿島昌也、同学芸員小林高範が担当した。
6. 本書の編集・執筆は鹿島が担当した。
7. 調査の実施から報告書作成までの間に次の各氏から有益な助言と協力を頂いた。記して謝意を表したい。  
安達志津・上野 章・島田修一・宮田進一・山本正敏（五十音順、敬称略）
8. 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

(1) 方位は真北、水平基準は海拔高である。

(2) 遺構の表記は次の記号を用いた。

SB：掘立柱建物、SD：溝、SK：土坑、P：柱穴状ピット、SE：井戸、SX：その他の不明遺構

(3) 挿図の遺物縮尺は1/2・1/3・1/4を原則とした。写真図版の遺物縮尺は1/2・1/3を原則とした。

## 目 次

I 遺跡の位置と環境	1	5. 清水堂小深田遺跡	16
II 調査にいたる経緯	3	(1) 試掘調査の概要	16
III 調査の概要	4	(2) 遺構と遺物	17
1. 清水堂A遺跡	4	6. 清水堂宗平邸遺跡	17
(1) 調査の経過と順序	4	(1) 調査の経過	17
(2) 遺構と遺物	4	(2) 発掘調査の概要	17
2. 清水堂C遺跡	4	(3) 小結	19
(1) 調査の経過と順序	4	7. 清水堂D遺跡	19
(2) 発掘調査の概要	4	(1) 試掘調査の概要	19
(3) 遺構と遺物	6	(2) 遺構と遺物	19
(4) 小結	14	(3) 発掘調査の経緯	19
3. 清水堂B遺跡	14	(4) 発掘調査の概要	21
(1) 試掘調査の概要	14	(5) 円形土坑について	21
(2) 遺構と遺物	14	写真・図版	26

# I. 遺跡の位置と環境

清水堂遺跡は、富山市の東北部の水橋清水堂地区にあり、東は上市町、南は舟橋村と接する位置にある。清水堂地区は西に流れる常願寺川の扇状地扇端部の湧水地帯にあたり、大辻山に端を発する白岩川が、明治38年に改修されるまでは曲折して流れおり、現在の自然堤防や河岸段丘などの微地形を形成し、この地区もその白岩川の右岸に位置し、現在は集落の外れを流れている川も改修前は集落の傍まで来ていた。このため川の後に広がる平野部では早くから豊富な水資源を利用した水田耕作が行われ、河川を利用した水運も発達していた。標高は約9 mを測る。

周辺には白岩川の兩岸をはじめ、上市川の河岸段丘との間に形成された微高地上の平野部には、縄文時代早期から近世に至る多くの遺跡が存在する。清水堂に集落が営まれる弥生時代、特に後期から古墳時代初期、周辺には上市町江上A遺跡のような大集落や、清川市魚舳遺跡、富山市金尾遺跡等が見られる。

古墳時代になると白岩川本・流域には「白岩川流域古墳群」と呼ばれるように多くの古墳が造られる。上流部の丘陵尾根上には柿沢古墳群があり、中・下流域の平野部に至ると立山町に径46mの葺石・周濠・周庭帯をもつ稚児塚古墳があり、舟橋村には竹内天神堂古墳（前方後方墳）、塚越古墳（円墳）があり、富山市に至ると清水堂・宮塚・若子塚古墳が造られる。集落では古墳時代の前期にかけては弥生時代後期からの存続が窺えるが、中期になるとその中心が他地域へ移動したのか、この地域に見ることが出来なくなる。

古代以降は立山町を中心に立山窯跡群が造られる。古代から中世にかけては須恵器窯が盛行し、中世末に開窯された越中瀬戸焼の窯が近世には一大窯業地として栄え、清水堂もその消費地としての役割を担っていたものと思われる。



- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 清水堂A遺跡    | 16 宮塚古墳    |
| 2 清水堂B遺跡    | 17 若王子塚古墳  |
| 3 清水堂C遺跡    | 18 小出城跡    |
| 4 清水堂D遺跡    | 19 水鏡池田館遺跡 |
| 5 清水堂小深田遺跡  | 20 水鏡石歌遺跡  |
| 6 清水堂赤平邸遺跡  | 21 水鏡野町遺跡  |
| 7 清水堂D遺跡    | 22 金地新遺跡   |
| 8 水鏡田伏遺跡    | 23 新館遺跡    |
| 9 水鏡金山遺跡    | 24 水鏡二杉遺跡  |
| 10 清水堂E遺跡   | 25 竹内遺跡    |
| 11 清水堂F遺跡   | 26 竹内天神堂古墳 |
| 12 水鏡中馬場遺跡  | 27 弘生寺城跡   |
| 13 HS-07遺跡  | 28 小平遺跡    |
| 14 田伏・佐野竹遺跡 | 29 堀田遺跡    |
| 15 金尾遺跡     | 30 土土ヶ瀬北遺跡 |

第1図 水鏡清水堂地内所在遺跡と周辺の遺跡 (1:50,000)



番号	遺跡名	面積	番号	遺跡名	面積
1	清水堂A遺跡	6,500m <sup>2</sup>	7	清水堂D遺跡	4,000m <sup>2</sup>
2	清水堂B遺跡	5,000m <sup>2</sup>	8	水橋田伏南遺跡	5,700m <sup>2</sup>
3	清水堂古墳	工事除外	9	水橋金広遺跡	3,800m <sup>2</sup>
4	清水堂C遺跡	5,500m <sup>2</sup>	10	清水堂F遺跡	16,000m <sup>2</sup>
5	清水堂小深田遺跡	4,000m <sup>2</sup>	11	清水堂E遺跡	29,000m <sup>2</sup>
6	清水堂宗平邸遺跡	1,100m <sup>2</sup>	計		80,600m <sup>2</sup>

第1表 沼澤整備事業地内所在遺跡

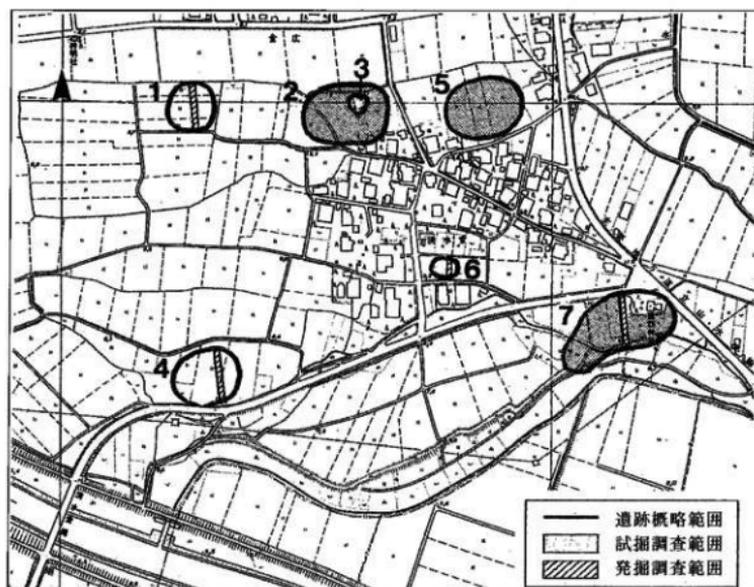
## Ⅱ. 調査にいたる経緯

平成4年度に、富山市水橋清水堂周辺の約36haの水田を対象として、県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業（清水堂地区）の計画が立案された。事業地内には既に周知の遺跡として、5遺跡（清水堂A遺跡、清水堂B遺跡、清水堂C遺跡、清水堂D遺跡、清水堂古墳）の所在を確認していた。ただし、一部に未調査地が残っていたため、平成5年1月に富山市教育委員会が詳細な分布調査を実施した。その結果、6遺跡（清水堂E遺跡、清水堂F遺跡、清水堂小深田遺跡、清水堂宗平邸遺跡、水橋田伏南遺跡、水橋金広遺跡）を新たに発見し、事業地内で合わせて11遺跡の所在が明らかとなった（第2図、第1表）。

分布調査の結果を踏まえて、富山県埋蔵文化財センター・富山県教育委員会・富山農地林務事務所など関係機関の間で協議を重ね、事業が開始される平成6年度から富山市教育委員会が主体となって、事前に遺跡の試掘調査、発掘調査を進めていくこととなった。

平成6年度は、平成6年12月に清水堂A遺跡と清水堂C遺跡、平成7年3月に清水堂宗平邸遺跡を対象として試掘調査を実施し、それぞれ遺跡の所在を確認した。

平成7年度は、平成6年度に所在が確認された遺跡の中で、農道敷設工事にかかる箇所について発掘調査を実施した。あわせて平成7年12月から清水堂B遺跡、清水堂D遺跡、清水堂小深田遺跡の試掘調査及び清水堂D遺跡の発掘調査を実施した。



第2図 遺跡調査位置図（1：5,000）

1. 清水堂A遺跡
2. 清水堂B遺跡
3. 清水堂古墳
4. 清水堂C遺跡
5. 清水堂小深田遺跡
6. 清水堂宗平邸遺跡
7. 清水堂D遺跡

## Ⅲ. 調査の概要

### 1. 清水堂A遺跡

#### (1)発掘調査の経過と層序

平成6年度の試掘調査の結果、1,500㎡の範囲に遺構の検出こそ無かったものの、厚さ約20cmの遺物包含層を確認し、土師器等古代を中心とする遺物の散布状況を確認していた。

平成7年度は試掘結果を踏まえ、遺物が散布する範囲内を南北に縦断する排水路敷設部について幅4m、延長50mの調査区を設定し、重機による表土排土後、作業員による遺物包含層発掘、続いて遺構確認を行った。

基本層序は、第1層灰色土（水田耕作土）、第2層灰褐色土、第3層暗灰褐色弱粘質土、第4層暗黄灰色粘質土となり、第5層灰色粘土の地山面に至る。第2層から第4層までは、弥生時代から中世までの遺物を含む遺物包含層である。

#### (2)遺構と遺物

試掘調査の際、遺構は確認されておらず、今回の発掘調査においても調査区北端に幅40～50cm、深さ4cmの浅い溝1本と穴1（深さ10cm）が検出されるに留まった。遺物は遺構内からは検出されなかった。

今回の調査で出土した遺物は、全て遺物包含層中からのもので、弥生時代から中世にかけてのものが見られる。

1は扁平片刃石斧である。刃先全体に光沢が観察され、先端部の一部を残して使用による微細剥離が見られる。弥生時代中期のものである。2は須恵器の壺である。3は須恵器の有台杯である。高台端部はナデによる丸みを帯びる。4は須恵器の無台杯である。口縁部は直線的にのびる。5は珠洲焼の壺である。器面を簡目波状文で加飾し、肩に横位の環状把手を付す。Ⅱ期に位置する。6～9は珠洲焼の片口鉢類の口縁部である。6・8に卸し目が観察される。口縁形態は6・7が水平口縁をなし、8は口縁端部をやや外側に肥厚させる。9は口縁内端に面を取り、そこに簡目波状文帯をめぐらす。6～8は吉岡編年（吉岡1994）Ⅲ～Ⅳ期、9はⅤ期に属するものと思われる。10は青磁碗の底部片で高台縁を面取りする。11・12は瀬戸焼の皿で、15世紀頃のものと思定される。

#### (3)小結

今回の調査区内からは、狭長な調査区の為、遺構の検出は僅かであったが、包含層より中世を主体とする遺物の出土を見た。出土した遺物から遺跡は14～15世紀頃に営まれた集落の縁辺部であると考えられる。

### 2. 清水堂C遺跡

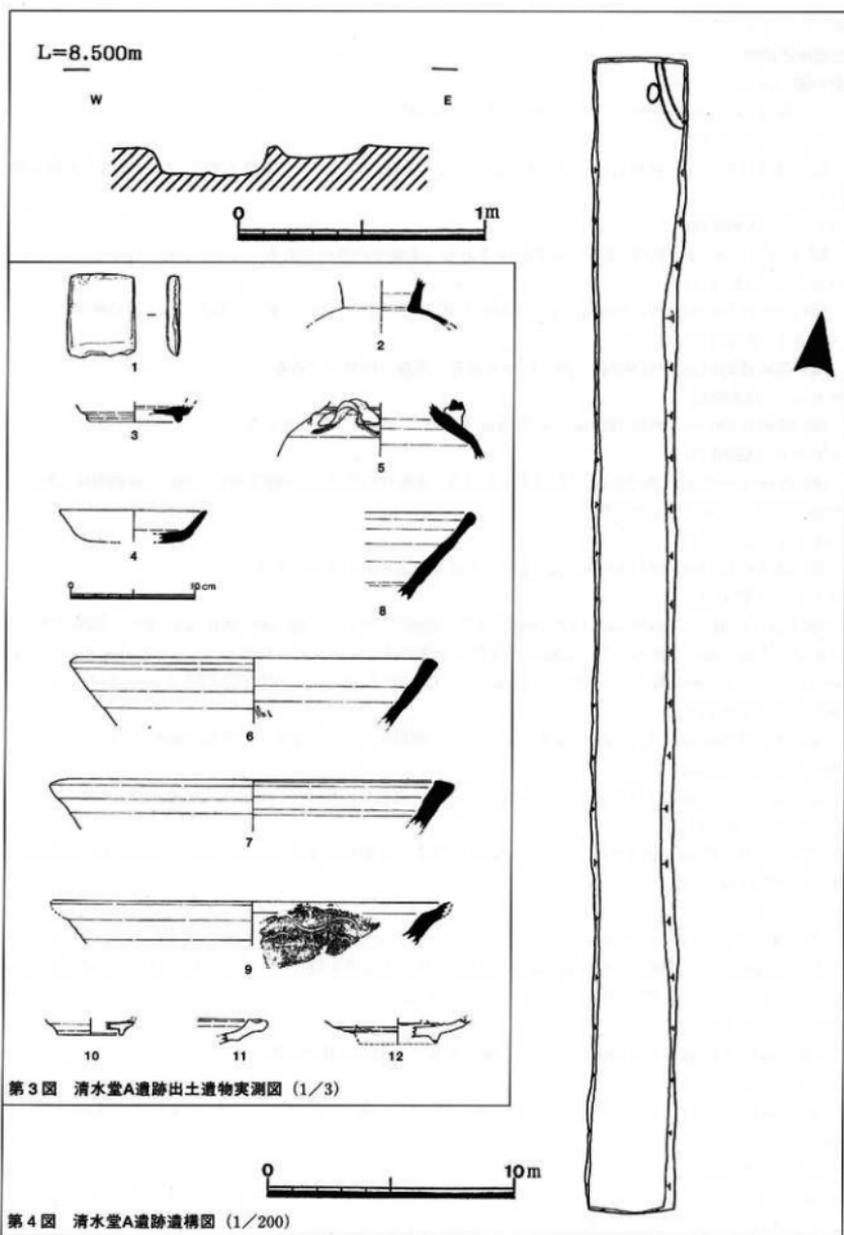
#### (1)発掘調査の経過と層序

平成6年度の試掘調査の結果、2,000㎡の範囲に中世（鎌倉時代）を主体とした遺跡の所在を確認した。これを踏まえ、富山農地林務事務所と協議を行い、排水路敷設予定地にかかる250㎡については発掘調査による保護措置を要することとなった為、平成7年5月から重機による表土排土後、地元清水堂地区を中心とする発掘作業員による遺物包含層発掘、続いて遺構確認を行った。

基本層序については、表土から地山まで70cmを計り、第1層灰色土（水田耕作土）、第2層灰色シルト土（旧耕作土、厚さ約30cm）、第3層暗褐色灰色シルト土（遺物包含層、厚さ約20cm）、第4層黄灰色の地山土に至る。第4層の地山面を掘り込んで黒灰色あるいは暗灰色の覆土を呈する遺構面が存在する。

#### (2)発掘調査の概要

発掘調査は遺跡範囲のほぼ中央を南北に延びる調査区250㎡を設定して行った。検出された遺構は、溝跡7条、井戸跡22基、土坑6基、小穴5基がある。出土遺物は、弥生土器、須恵器、緑釉陶器、土師質土器、越中瀬戸焼、越前焼、珠洲焼、瓦質陶器、近世陶磁器、青磁、動物骨片、鉄鏡、五輪塔火輪、漆塗木製品（椀）、箸状木製品、木筒「一」、各種木製品、種子等植物遺体、炭片等が出土している。多くの遺物は井戸跡、



溝からの出土である。

### (3)遺構と遺物

#### 井戸跡 (SE)

井戸跡は全部で22基検出し、殆ど平面形は円形を基調とする。

##### SE01 (X236Y14)

開口部直径約1.3m、底径1.0m、深さ1.25mを計る。素掘りの井戸で、箸状木製品、人頭大の石1個を検出した。

##### SE02 (X209Y14)

開口部直径約0.7m、底径0.65m、深さ0.8mを計る。素掘りの井戸である。

##### SE03 (X205Y14)

開口部直径約0.95m、底径0.65m、深さ1.46mを計る。素掘りの井戸である。拳大の石を数点検出した。

##### SE04 (X216Y15)

開口部直径約1.1m、底径0.8m、深さ1.2mを計る。素掘りの井戸である。

##### SE05 (X208Y13)

開口部直径約0.9m、底径約0.8m、深さ1.26mを計る。素掘りの井戸である。

##### SE06 (X210Y13)

開口部直径約0.75m、底径0.6m、深さ1.39mを計る。素掘りの井戸で、須恵器有台 (22)、緑釉陶器 (23)、越前焼 (21)、瀬戸焼を出土した。

##### SE07 (X217Y14)

開口部直径約0.8m、底径0.55m、深さ1.27mを計る。素掘りの井戸である。

##### SE08 (X230Y15)

開口部直径約0.8m、底径0.5m、深さ0.95mを計る。素掘りの井戸で、越中瀬戸焼丸 (31・32)、播鉢 (33)、五輪塔の火輪 (34) を検出した。五輪塔の火輪は上部のぼぞ穴が深く、底部が平らな形態をとり、15世紀頃のものであるが越中瀬戸焼が共伴していることから、井戸の年代は17世紀代以降のものと思われる。

##### SE09 (X219Y15)

開口部直径約0.6m、底径0.5m、深さ0.8mを計る。素掘りの井戸である。石を数点検出した。

##### SE10 (X214Y16)

開口部直径約0.7m、底径0.5m、深さ約1.0mを計る。素掘りの井戸である。川原石を20個以上検出した。

##### SE11 (X215Y14)

開口部直径約0.8m、底径0.55m、深さ約0.6mを計る。素掘りの井戸である。井戸の上面に石 (約20cm×10cm) が数点検出された。

##### SE12 (X215Y14)

開口部直径約0.6m、底径0.45m、深さ約0.4mを計る。西壁面に井戸枠の残片と思われる曲げ物状になった木片を検出した。遺構の上面には小礫が多量に入り、土師質土器片も混じる。掘り込みが他の井戸より浅く、井戸ではなく曲げ物を埋めた土坑の可能性もある。

##### SE13 (X210Y15)

開口部直径約0.7m、底径0.6m、深さ約0.4mを計る。素掘りの井戸である。

##### SE14 (X205Y13)

開口部直径約0.8m、底径0.65m、深さ約1.4mを計る。素掘りの井戸である。越中瀬戸焼の丸皿 (24) を検出した。

##### SE15 (X233Y13)

開口部直径約0.7m、底径約0.5m、深さ約0.7mを計る。素掘りの井戸である。井戸内からは多量の箸状木製品が出土し (第14図)、各種木製品も検出された (第13図)。土器は土師質の皿 (35) や内面黒色の土

師器碗(26)の他に珠洲焼片、越前焼片も出土している。また、埋土を現地であるいは持ち帰り、水洗いしたところ多くの植物遺体が発出された。その多くは種子類で、柿、桃、ウリ科植物等がある。

SE16 (X238Y12)

開口部直径約0.95m、底径約0.6m、深さ約0.92mを計る。素掘りの井戸で、珠洲焼の播鉢の底部片(30)を検出した。

SE17 (X240Y12)

開口部直径約0.7m、底径約0.55m、深さ約0.8mを計る。素掘りの井戸である。

SE18 (X216Y14)

開口部直径約0.6m、底径約0.4m、深さ約0.7mを計る。素掘りの井戸でSE07とSE21に接する位置にある。

SE19 (X235Y13)

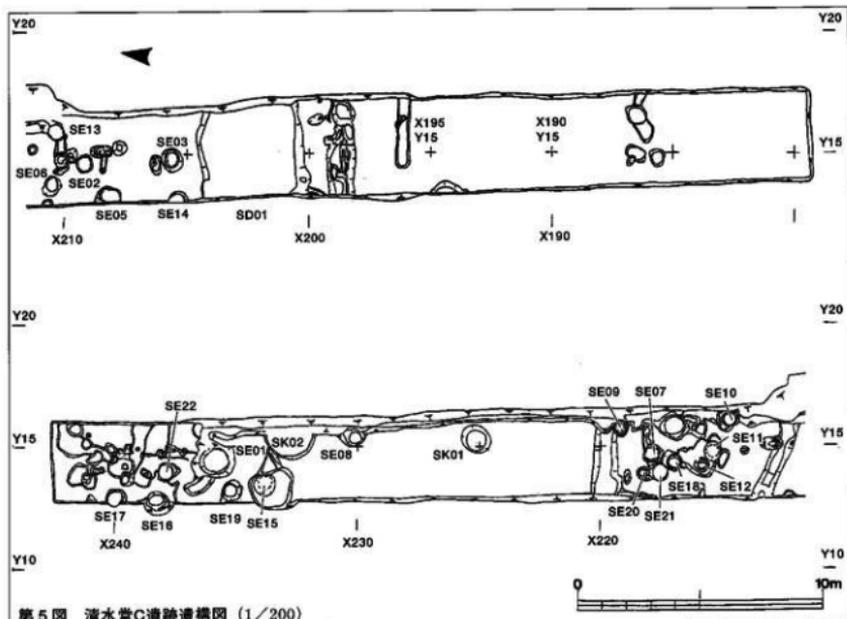
開口部直径約0.75m、底径約0.5m、深さ約1.05mを計る。素掘りの井戸である。

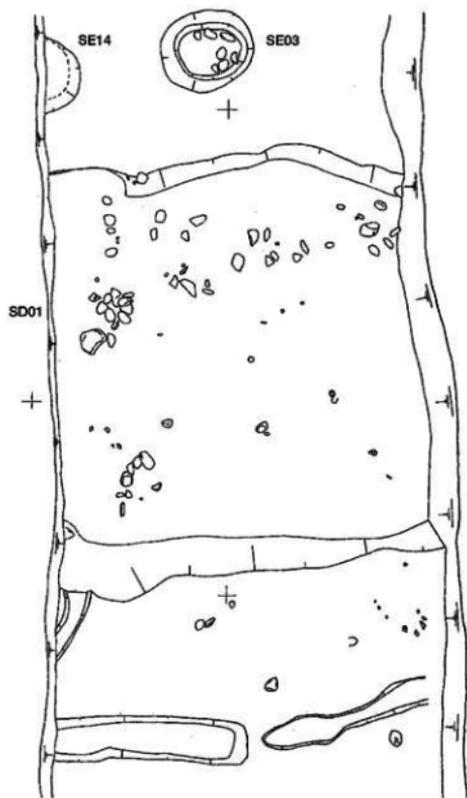
SE20 (X218Y13)

開口部直径約0.55m、底径約0.35m、深さ約1.05mを計る。素掘りの井戸でSE21と切り合って位置する。

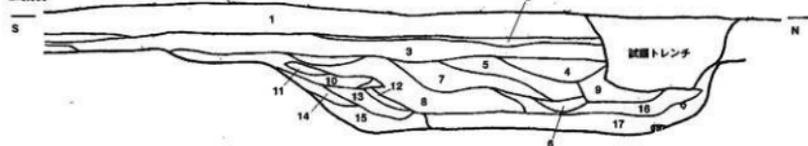
SE21 (X217Y13)

開口部直径約0.75m、底径約0.6m、深さ約1.01mを計る。素掘りの井戸で、越中瀬戸焼の丸皿(27・28・29)の他に鉄鏡(図版9)を検出した。



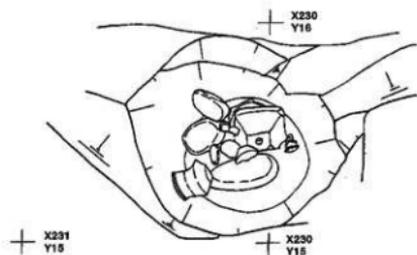


L=8,500

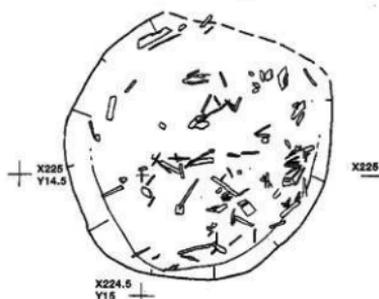


- |                     |                         |                            |
|---------------------|-------------------------|----------------------------|
| 1 灰色シルト土(田耕作土)      | 9 増褐色シルト土               | 17 増灰色面粘質土<br>(埋物質、炭などを含む) |
| 2 黄褐色土              | 10 増灰黄色シルト土             |                            |
| 3 増褐色シルト土(黄褐色含炭)    | 11 増褐色シルト土              |                            |
| 4 増褐色面粘質土(黄色ブロック含む) | 12 増褐色シルト土              |                            |
| 5 増褐色土面粘質土          | 13 灰色面粘質土               |                            |
| 6 増黄灰色砂質土           | 14 増褐色シルト土              |                            |
| 7 増褐色シルト土           | 15 増褐色粘質土(砂まじり)         |                            |
| 8 黄灰色シルト            | 16 増褐色面粘質土(黄灰色ブロック少量含む) |                            |

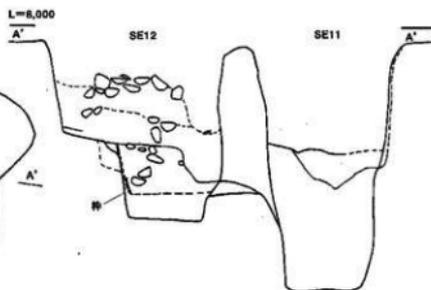
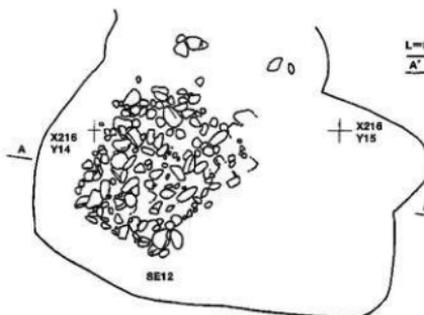
第6図 清水堂C遺跡SD 01遺物出土状況 (1/100) 及び西壁土層断面図 (1/50)



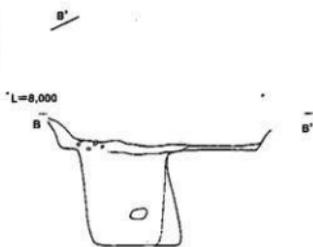
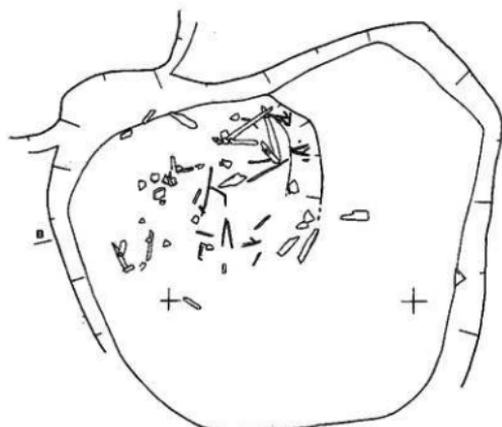
第7図 SE08遺物出土状況 (1/20)



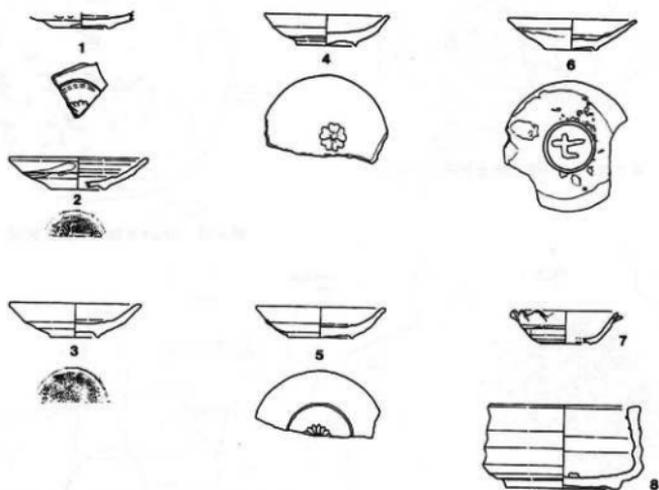
第8図 SK01木製品等出土状況 (1/20)



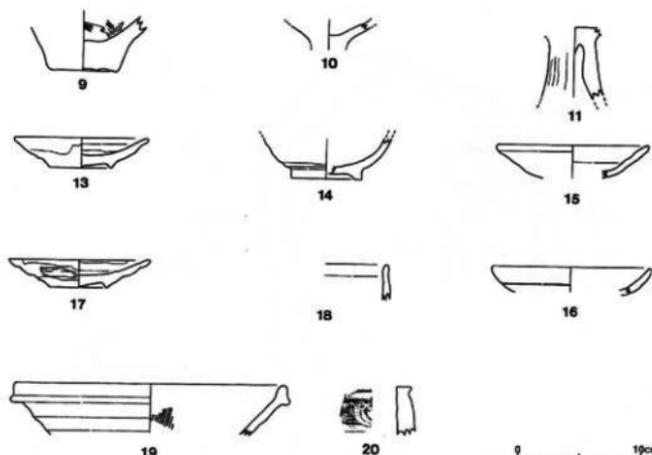
第9図 SE11及びSE12遺構平面図及び土層断面図 (1/20)



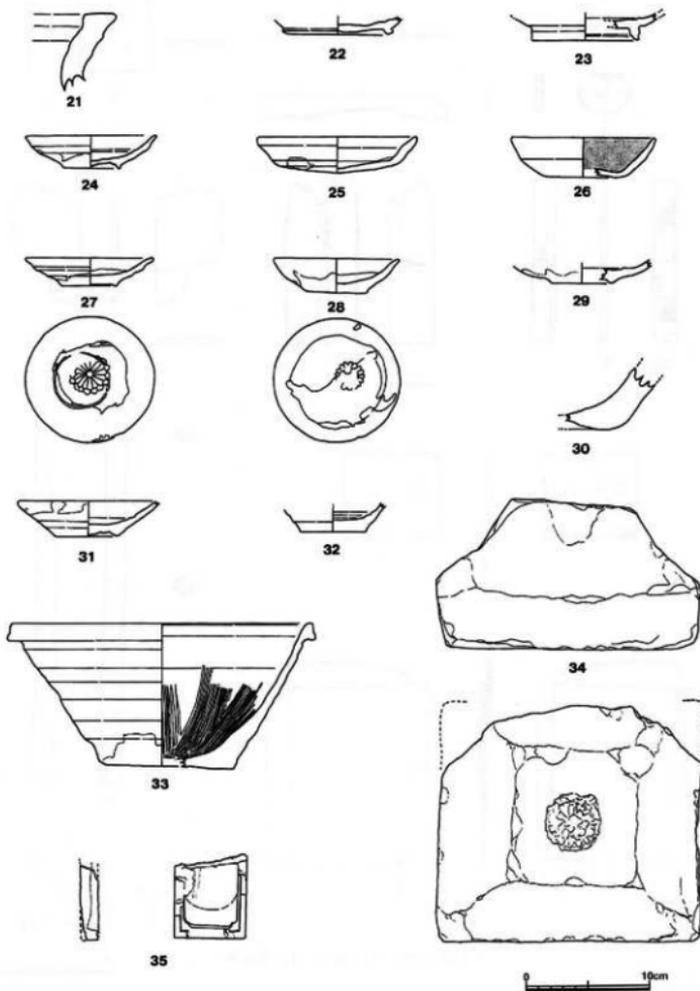
第10図 SE15上面遺物出土状況 (1/20) 及び土層断面図 (1/40)



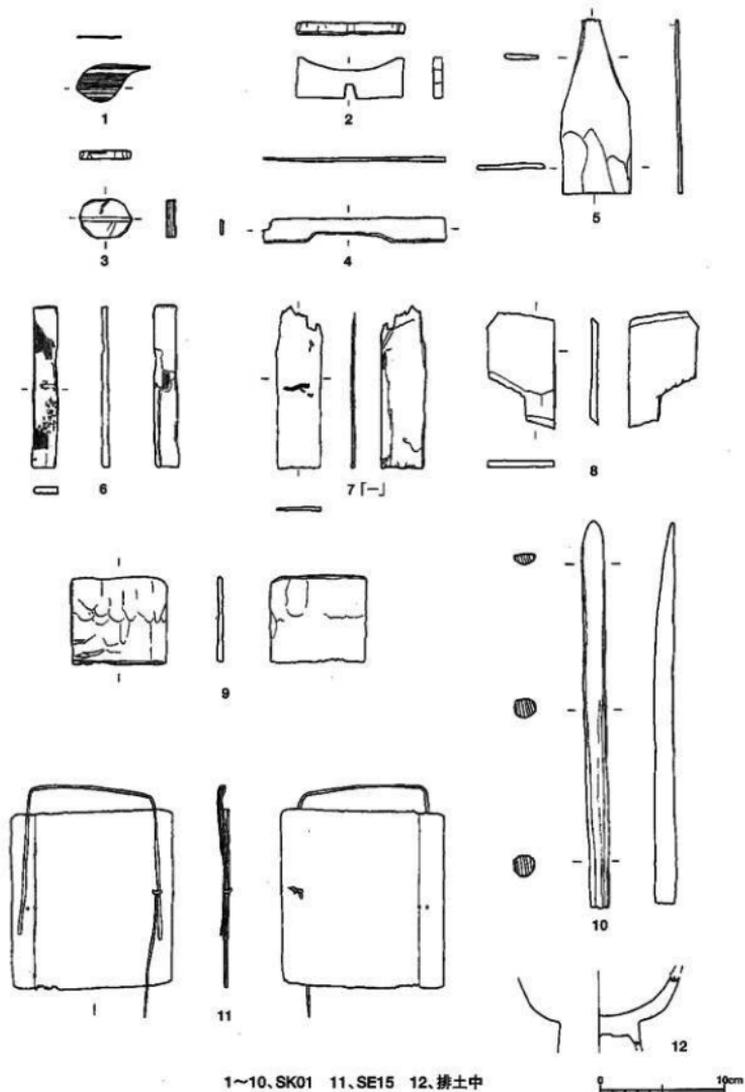
第10图 清水堂C遗址包含层出土文物实测图 (1/4)



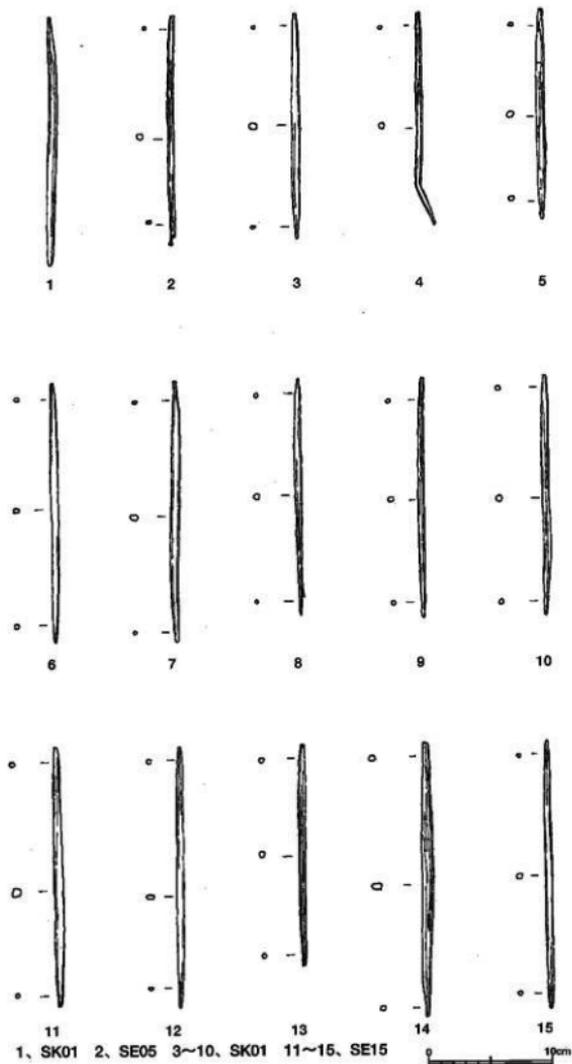
第11图 清水堂C遗址遗构出土文物实测图 (1/4)



第12圖 清水堂C遺跡 遺構(井戸)出土遺物実測圖 (35は包含層出土) (1/4)



第13圖 清水堂C遺跡 遺構出土木製遺物実測 (1/4)



第14圖 清水堂C遺跡 遺構出土 箸状木製品実測圖 (1/4)

## SE22 (X237Y14)

開口部直径約0.65m、底径約0.55m、深さ約1.1mを計る。素掘りの井戸で、底部近くに約40cm×25cmの大きさの石が検出された。

### 溝跡

#### SD01 (第6図)

調査区南寄りに位置し、溝以南は遺構が薄くなる。幅約42mを計る。出土遺物には、弥生土器(9・10・11)、越中瀬戸焼(13・14)等がある。

### 土坑

#### SK01 (第8図)

調査区のほぼ中央に位置する。直径約1.25mを計る。土坑内からは着状木製品約850本の他に、木製品(第13図)

が多く検出され、越中瀬戸焼(17)等も出土している。

#### SK02 (X223Y15)

調査区東壁にかかる土坑で、ここからも着状木製品が数点検出された他、越中瀬戸焼片等が出土している。

### (4)小結

今回の調査では約250㎡という狭長な調査区の中から22基もの井戸跡が検出されている。出土遺物から中世から近世期にかけて利用された井戸跡であったと考えられる為、何世代かに渡った集団の利用が考えられる。清水堂地区は、その名が示すとおり、立山連邦からの伏流水の湧水地帯にあたり、現在でも井戸水が多く利用されている。清水堂の名はこの地が作付け用水不足で旱魃が続いた折、一夜一老人の夢の告げにより、村人が井戸を掘ると清水が湧き、そこにお堂を建て、諏訪神を祀ったという伝承がその由来として残っている。湧水地を求めてこの地を選んで生活を営んだ集団の集落が近隣に想定される。

## 3. 清水堂B遺跡

### (1)試掘調査の概要

清水堂B遺跡は富山市水橋清水堂字中坪、字大塚に位置し、現在は墓地に覆われている清水堂古墳を囲むように遺跡の広がりが見込まれている。今回のほ場整備では、古墳の墳丘と考えられる高まりは、工事から除外されることとなり、周囲の水田及び畑地約5,000㎡が工事対象となるため、試掘トレンチを13箇所設定し、試掘調査を行った。清水堂古墳の周囲には、周濠等の施設が残っている事が想定されるため、古墳を中心に作物の作付けの合間を縫って放射状に試掘トレンチを設定した。

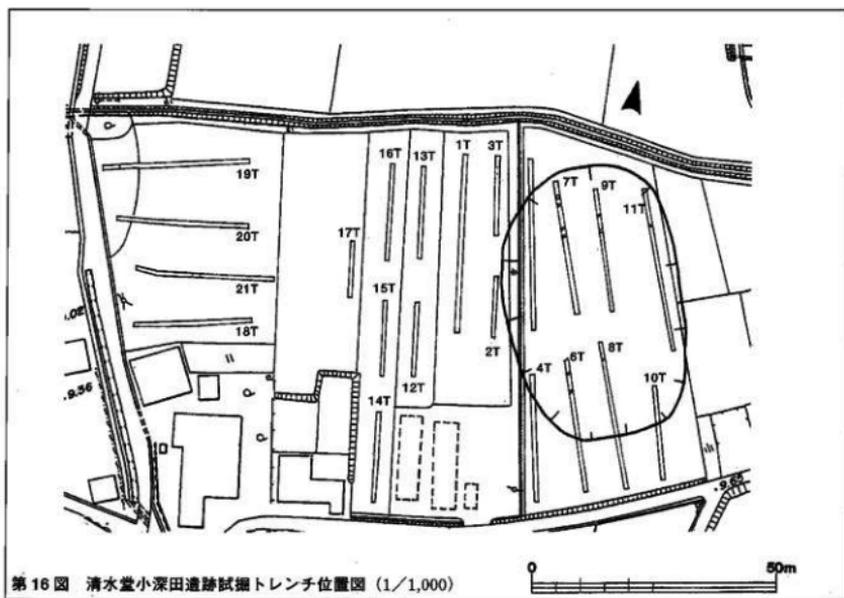
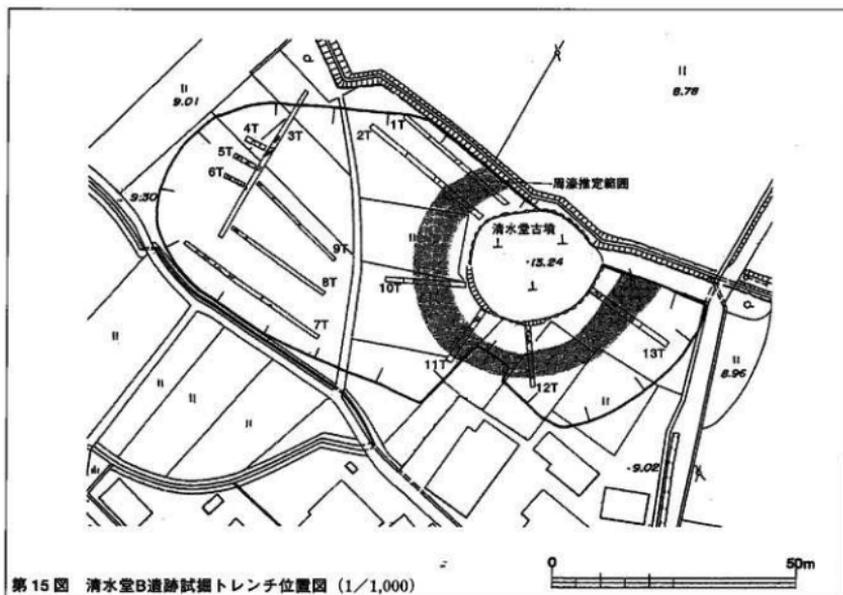
基本層序は、第1層耕作土(厚さ15~20cm)第2層灰褐色土(厚さ1~20cm、遺物包含層)、第3層黄白色あるいは青灰色土(地山土)に至る。第3層の地山面を掘り込んで、穴、溝等の遺構が検出された。遺構面は表土から約15~40cmの位置に検出されている。

### (2)遺構と遺物(第15図、第17図)

今回設定した全ての試掘トレンチから遺構が検出された。1T・2T・10T~13Tにおいては、幅7~7.5mの溝が各々のトレンチを横切っており、それを繋ぐと清水堂古墳を取り囲むような形となり、古墳の周濠であった可能性が高い。なお、一部トレンチにかかる溝の覆土を除去してみた所、深い所で約20cmで溝底に至り、上部がかなり削平を受けていた事が想定できる。また、周濠に囲まれた墳丘側の平坦面には、中世期の遺構が検出され(11T~3T)、当該期には古墳が削平を受けていたことが想定される。しかし今回確認された溝から、墳丘の直径を推測すると、清水堂古墳は約30mの円墳であった可能性が高い。

一方、調査区西寄りに設定したトレンチからは、掘立柱建物に伴うと考えられる小穴群を検出した(4T~6T)。

出土した遺物は、弥生土器(1・2)、須恵器蓋(3)、土師器(4~7)、越中瀬戸焼(8~13)、唐津焼(14・15)、珠洲焼等がある。周濠と思われる溝跡からは、弥生土器が検出されたのみで、古墳の時期を決定付ける遺物の出土は無かった。

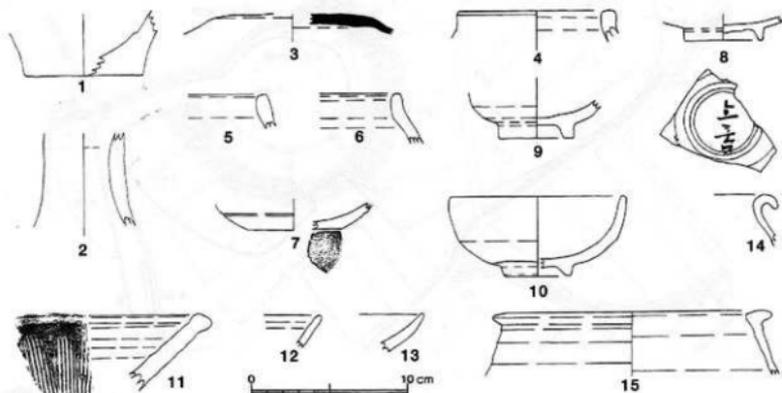


#### 4. 清水堂小深田遺跡

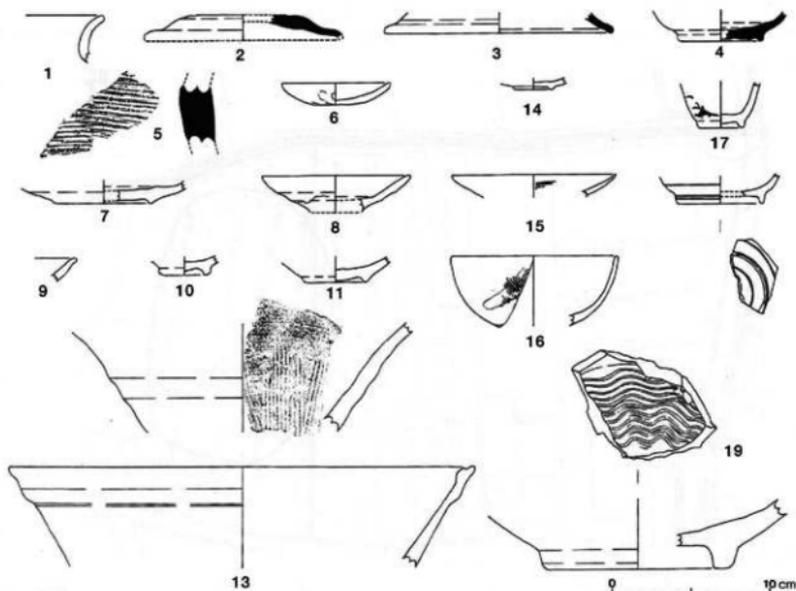
##### (1) 試堀調査の概要

清水堂小深田遺跡は、富山市水橋清水堂字小深田地内に位置している。ほ場整備にかかる4,000㎡を対象に試堀トレンチ21箇所を設定し調査を行った。

基本層序は、第1層水田耕作土（厚さ30cm）、第2層黄褐色シルト土（厚さ10～15cm、遺物包含層）、



第17図 清水堂B遺跡試掘調査出土遺物実測図 (1/3)



第18図 清水堂小深田遺跡試掘調査出土遺物実測図 (1/3)

第3層暗灰色粘質土（厚さ約40cm）、第4層黒褐色粘質土（厚さ10～15cm）、第5層青灰色粘土（地山土）に至る。遺構面は第5層を掘り込んで若干の溝跡、小穴等を検出している。第2層には若干の遺物が確認されたが第3層上面には遺構は確認されていない。

遺構は調査対象区東寄りに設定したトレンチで確認されており（6T～9T・11T）、4T・10Tの北寄りには遺物包含層から土器等の出土を見た為、この範囲を含め清水堂小深田遺跡は1,700㎡の範囲に広がっている状況を確認した。

## (2)遺構と遺物（第16図、第18図）

遺構は6T～9T・11Tのいずれも北寄りの地区に、トレンチの東西を幅20～30cmの溝が数条横切る。覆土は黒褐色粘質土を呈する。一部覆土中から自然木の出土が確認できたが、土器等は確認されなかった。

出土遺物には、弥生土器（1）、須恵器蓋（2・3）須恵器有台杯（4）、珠洲焼（5）、土師質土器（6）、越中瀬戸焼（7～13）、近世～近代陶磁器（14～19）等がある。

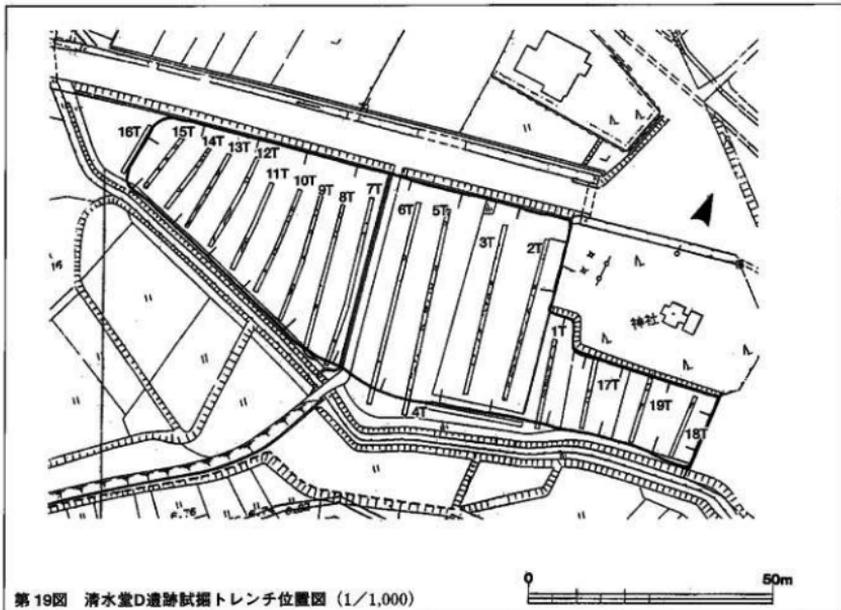
## 5. 清水堂宗平邸遺跡

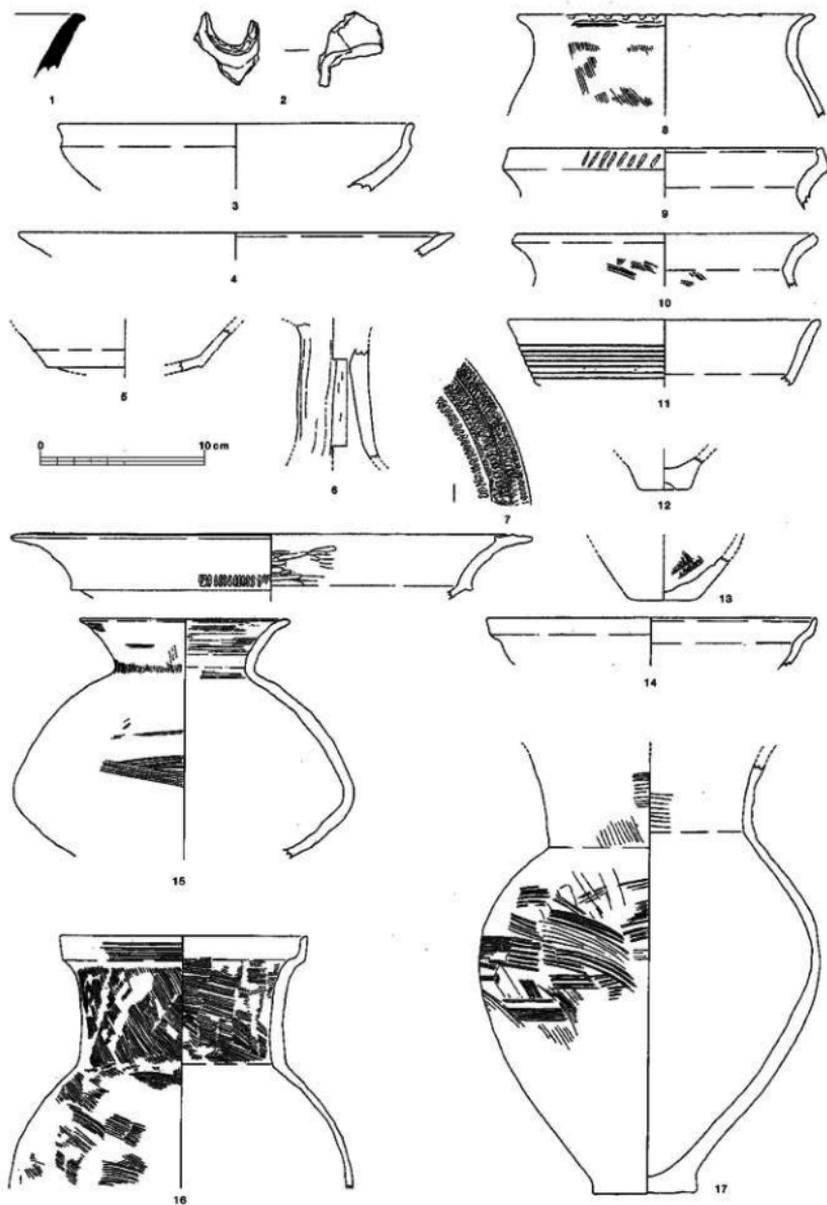
### (1)調査の経緯

平成6年度の試掘調査で、約200㎡に遺跡の範囲を確認した。これを踏まえて富山農地林務事務所と協議を行った結果、水路敷設箇所50㎡について発掘調査による保護措置を要することとなり、発掘調査を実施した。

### (2)発掘調査の概要（第21図）

遺跡の中央を南北に延びる50㎡の調査区を設定し、発掘調査を実施した。検出された遺構は、調査区南壁から北東方向に延びる溝跡数条を検出し、調査区北寄りに数か所と南寄りに1箇所小穴を検出した。溝跡からは木片及び小石を数点検出するに留まった。遺物は調査区北寄りから土師器片数点及び、近世陶磁器片数点が出土した程度で、遺構の時期を確定できる遺物の出土は見なかった。





第20图 清水堂D遺跡試掘調査出土遺物実測図 (1/3)

### (3)小結

今回の調査区は50㎡と僅かであった為、遺跡の性格を決定付けることは困難であるが、地元の人たちの話によると、昔この地に「そうべいやしき」と称される屋敷跡が存在していたと伝え聞いており、字名に残る宗平邸がかつてこの周囲に存在していた事を想定させる。

## 6. 清水堂D遺跡

### (1)試掘調査の概要

清水堂D遺跡は、富山市水橋清水堂字押上、字与三兵衛屋敷地内に位置している。ほ場整備にかかる約5,000㎡を対象に試掘トレンチ19箇所を設定し調査を行った。

基本層序は、第1層水田耕作土(厚さ15~20cm)、第2層灰褐色土(厚さ1~20cm、遺物包含層)、第3層黄褐色土(地山土)に至る。遺構面は、第3層を掘り込んで溝、土坑、小穴等が西端に設定した19T及び南端の4T以外の全てのトレンチから検出された。遺構面は表土から約15cmから30cmと比較的浅い位置に存在している。清水堂D遺跡の範囲は3,760㎡に所在することが確認された。遺跡の南は旧白岩川の川道にあたり、現況水田面は約1mの段差がある。遺跡の確認された地点は、旧白岩川が北から東へ向かいさらに南へと褶曲する低位段丘に位置するため、幾度かの水害や、耕作等の削平を受けていることが想定される。

出土遺物等から、遺跡は弥生時代中期末から後期後半を主体とする集落跡と考えられ、若干中世期から近世期の遺構も同一の遺構面に存在するものと想定される。

### (2)遺構と遺物(遺構第19区、遺物第20区)

試掘調査対象地の東寄り(諏訪神社の南)の地区に大溝あるいは谷地形の北肩が検出され(18T・19T)、覆土中から完形に近い弥生土器の壺等が出土した(15・16・17)。また、2Tからは直径約1~1.5mの円形の土坑群が検出され、暗灰褐色の覆土中からは、破砕した弥生土器片が多く出土している。さらに、5Tからはスタンプ文を施し丁寧にヘラミガキされ赤彩を施された高杯(7)が出土している。遺跡の中央付近は遺構の密度は薄くなる(6T・7T)が、さらに西になると溝・穴・焼土を伴う土坑等も存在し遺構の密度は濃くなる。

出土遺物には弥生土器の甕・壺・高杯・器台、土師器、珠洲焼、越中瀬戸焼などコンテナ箱4箱分出土した。

### (3)発掘調査の経緯

試掘結果を踏まえて富山農地林務事務所と協議を行った結果、諏訪神社南の地区については、水田面調整を行った結果現況の高さを保ったまま整備を施工する事で、遺構などは保護される事となったが、当該地区以西の水田及び農道・水路については、県農地林務事務所側で地元を含めて検討された結果、現況より約1m近く削平を行う計画の変更が不可能となった為、まず諏訪神社西側の南北に延びる道路及び水路約600㎡を対象に発掘調査を実施した。道路及び水路以西の水田面調整により削平の計画がある地区については、今後、工法等を検討し発掘調査が必要となるか、県埋蔵文化財センターの指導の下、協議を詰めていく事となった。

### (4)発掘調査の概要

試掘調査で遺構面は表土直下に検出されているため、重機による表土排土中にも遺物が出土しており、表土も遺物包含層ととらえる事も可能である。ただ、耕作の為破片が多く接合する遺物は僅かであった。表土排土後、作業員により遺構検出作業、遺構発掘を引き続き行った。

検出された遺構は弥生時代後期後半~終末期と考えられる掘立柱建物1棟・大小の円形土坑19基・溝跡1条、古代の溝跡1条、中世~近世の土坑3基・溝跡3条・小穴群等がある。

出土遺物は、弥生時代後期後半から終末期にかけての土器(甕・壺・高杯・器台・椀・蓋)、ヒスイ原石、水晶原石、ガラス小玉、緑色凝灰岩片等が円形土坑中から出土している。

円形土坑群の詳細については別表及び(5)で記すが、切り合いをもつもの(SK03-08-15-16)が存在し、



ある程度時期幅をもって造られていったものと想定される。掘立柱建物については、また、SK18・SK21は古代の溝に切られ、SK01は中世の以降の溝跡に切られている。

一方、SK01の北に南北方向に走るSD01を境にして、弥生時代の円形土坑は見られなくなり、中世期の遺構がその主体となる(SK14・SD03・04等)。掘立柱建物に伴うと考えられる小穴群が、X35～50付近にまぎって検出されているが、現代～現代にかけての小穴も混じっており、弥生期及び中世期と確定できる建物跡に伴う柱の並びを確認するには至らなかった。

掘立柱建物(SB01)については、X21～28付近に東西方向に調査区を横切っており、1間?×3間以上?の建物と想定され、南側の柱列に近接して柱列が確認出来、建て替えが行われていた事が想定される。

#### (5)円形土坑について

土坑はほぼ直線上に並ぶ直径1.5m～1.7mの一群とその周辺に直径2.0m～2.3mのやや大型の円形土坑群が配置している。土坑内から出土する土器は殆ど破砕された状態で、埋土は地山小ブロックが混入し、自然に埋ったものとは考えにくく人為的な埋め戻しによる状況が同われ、中には途中で薄い焼土及び炭層が入る土坑も4基確認されている。出土遺物は破砕された土器に混じって、ガラス小玉、ヒスイ・水晶の原石、緑色凝灰岩片を埋土中から検出した土坑も存在する。

土坑が造られた時期についてであるが、切り合い関係をもつ土坑もあり若干の時期幅は考えておく必要がありまた、今後の出土土器の詳細な検討を要するが、弥生時代後期終末以前の時期に造られたものと思われる。

弥生時代の後半～終末の時期に、丘陵上に形成される集落において大型の円形あるいは方形の土坑が見られる。

この土坑に関しての論考も行われており、その機能としては地下式の貯蔵用施設であるとの見解がなされている。

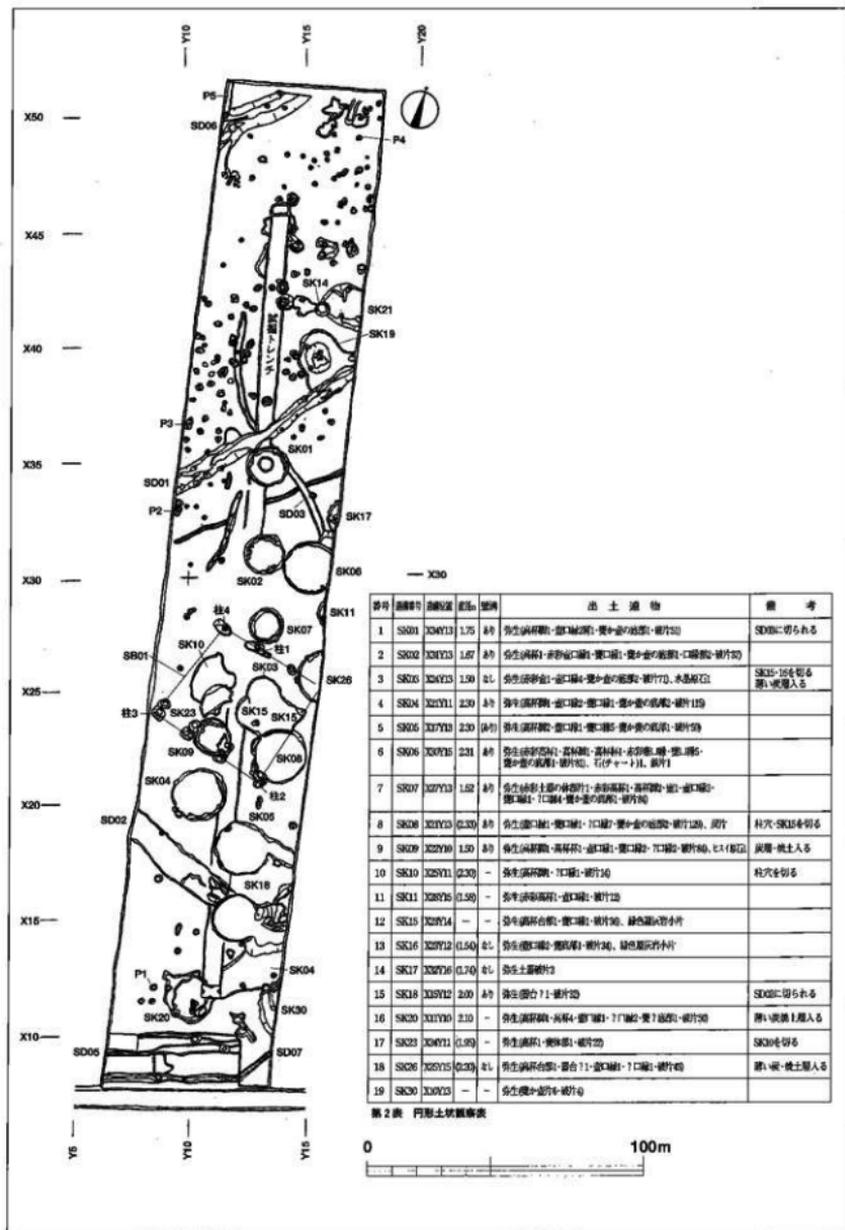
ところが、富山市内においてこれまで調査例の少なかったこの時期の平野部において近年、2遺跡からかかる円形土坑がまぎって出土したことから、これまで概して台地・丘陵上での検出例から、その見解がなされてきた貯蔵穴としての性格に一考を加え得る資料になるのではないかと考える。

一つは本報告で紹介した白岩川中流右岸に位置する清水堂D遺跡例であり、もう一つは海岸部に近い富山市日方江遺跡で確認されている例である。後者においては、遺跡のすぐ西を村川水路が流れ、海岸砂丘内側に広がる微高地上に立地し、42㎡のトレンチ内に直径1.8m～2.2mの3墓の円筒状土坑と直径4.3mの断面U字形土坑1墓を検出している。遺構を区画する溝等は確認されていないが、遺跡西側に集中するという占地の特色が指摘されている。円筒状土坑からは赤彩された土器も出土しており、堆積状況から貯蔵穴もしくは墓墳ではないかとの見解が示されている。なお、断面U字形土坑については時期が遡り弥生中期の遺構とされている。

以上の2遺跡は、扇状地からデルタ地帯及び海岸近くに位置するといった立地条件からして頻繁に洪水等の被害を被る場所にある、一般に貯蔵用施設と理解されている遺構の条件を備えているが、ここではそういった利用以外の用途も今後検討していく必要があるのではないかと考えている。

#### 参考文献

- 古川知明 1989「日方江遺跡」【昭和63年度 富山市埋蔵文化財発掘調査概要】富山市教育委員会  
三浦純夫 1987「北陸における弥生時代の大型土坑」【考古学と地域文化】同志社大学考古学シリーズⅢ  
北野博司 1991「大型土坑について」【押水町冬野遺跡群】石川県立埋蔵文化財センター

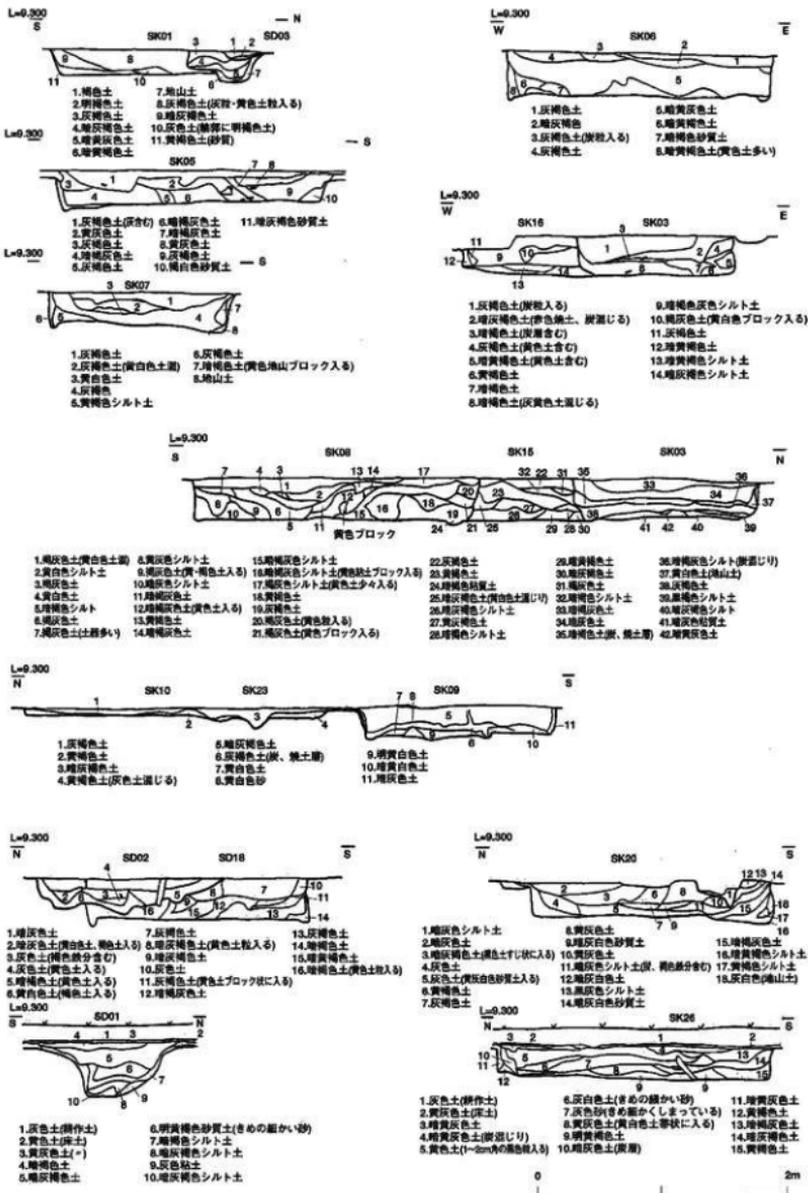


発掘	調査年	発掘位置	深さ	出土遺物	備考
1	SK01	X24Y13	1.75	弥生前期銅剣・銅短剣(柄)・骨かまの柄頭・榍竹筒	SD01に切られる
2	SK02	X24Y13	1.67	弥生前期鉄・赤銅器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	
3	SK03	X24Y13	1.50	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒・木製板石	SK10-15に転る 跡・使用入る
4	SK04	X22Y11	2.30	弥生前期銅剣・土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	
5	SK05	X37Y13	2.30	弥生前期銅剣・土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	
6	SK06	X20Y15	2.31	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	
7	SK07	X27Y13	1.52	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	
8	SK08	X21Y13	2.35	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	柱穴・SK16に切れる
9	SK09	X22Y10	1.50	弥生前期銅剣・土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	炭屑・土器入る
10	SK10	X28Y11	2.30	弥生前期銅剣・土器(口蓋)・榍竹筒	柱穴を切る
11	SK11	X28Y15	2.50	弥生前期銅剣・土器(口蓋)・榍竹筒	
12	SK13	X28Y14	-	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・榍竹筒・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	
13	SK16	X29Y12	2.50	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・榍竹筒・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	
14	SK17	X29Y16	2.70	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・榍竹筒	
15	SK18	X29Y12	2.00	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・榍竹筒	SD02に切られる
16	SK20	X21Y10	2.10	弥生前期銅剣・土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	跡・土器入る
17	SK23	X24Y11	2.50	弥生前期銅剣・土器(口蓋)・榍竹筒	SK10に切れる
18	SK26	X25Y15	2.35	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・土器(甕)・榍竹筒	跡・土器入る
19	SK30	X33Y13	-	弥生前期土器(口蓋)・土器(甕)・榍竹筒	

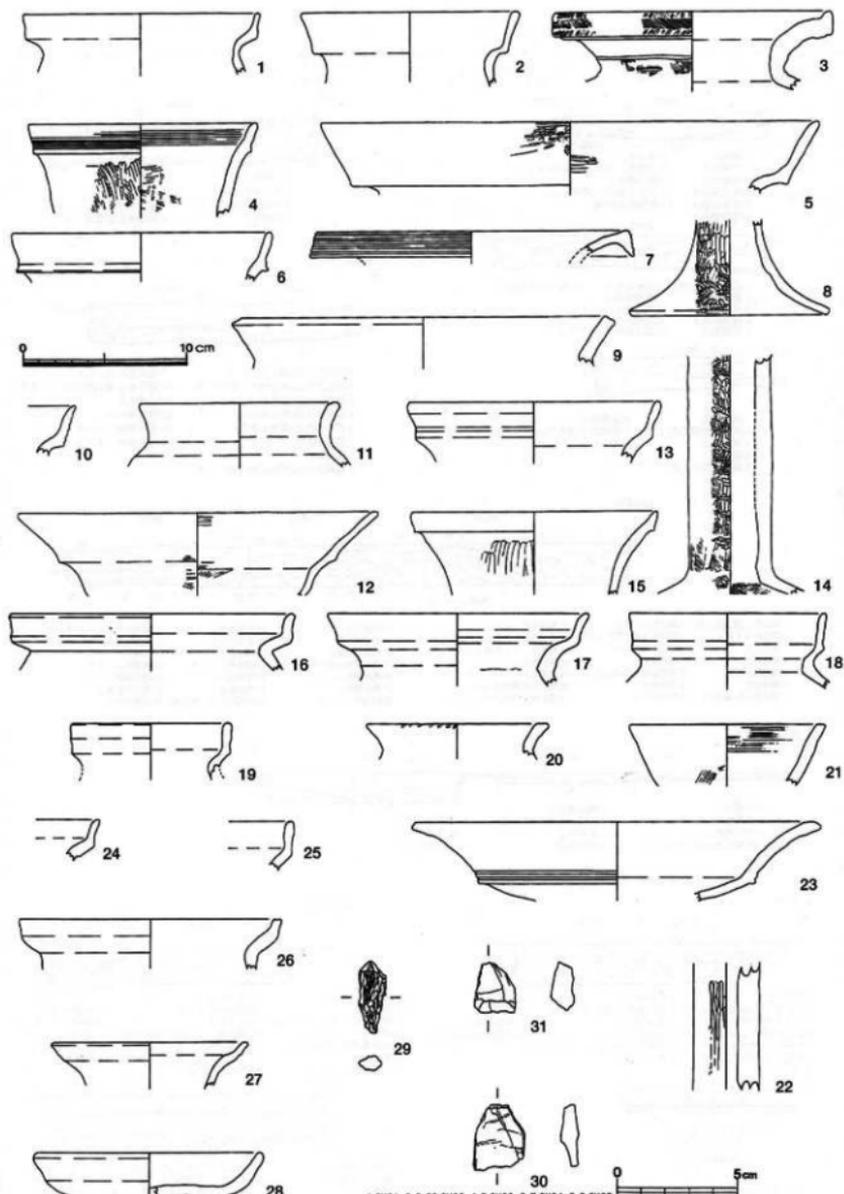
第2表 発掘土坑調査表



第22図 清水堂D遺跡発掘調査遺構平面図 (1/200)

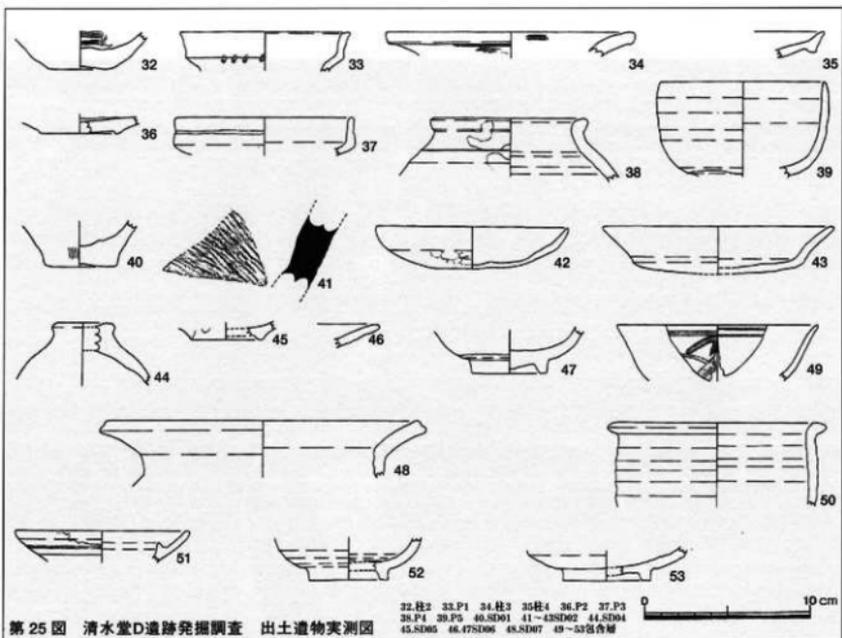


第23図 清水堂D遺跡発掘調査遺構土層断面図 (1/40)



第24图 清水堂D遺跡発掘調査出土遺物実測図

1,SK01 2-3-29,SK02 4-5,SK03 6-7,SK04 8-9,SK05  
 10-12,SK06 13-14,SK07 15,SK08 16-18-30,SK09  
 19,SK11 20-21,SK15 22,SK16 23,SK20 24,SK23  
 25-26,SK20 27,28,SK14 31,8±0



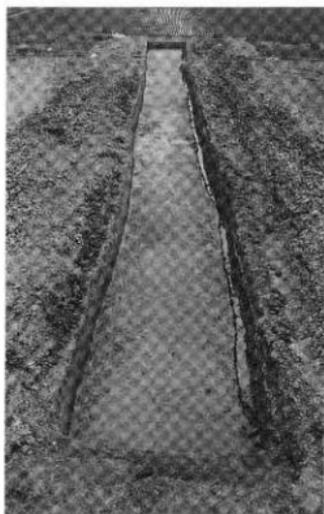
第 25 図 清水堂D遺跡発掘調査 出土遺物実測図



1.清水堂地区航空写真(1:10,000)



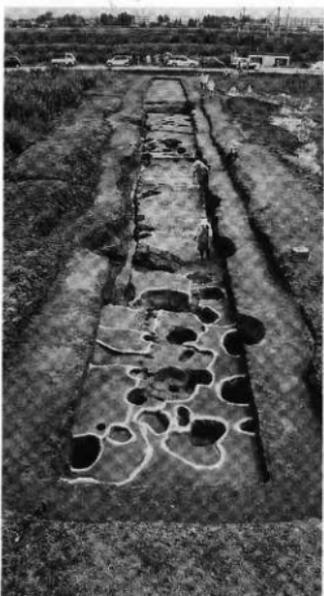
2.清水堂A·C遺跡



1. 清水堂A遺跡



3. 清水堂C遺跡遺構検出状況



2. 清水堂C遺跡



4. 清水堂C遺跡 SD01



5. 清水堂C遺跡 井戸集中地区



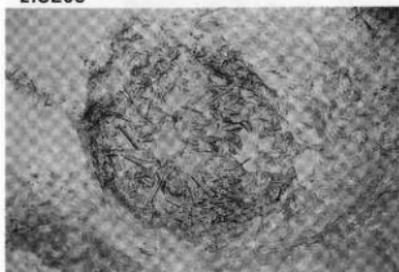
1.SK01



3.SE21(上),SE07(下)



2.SE08



4.SE15上面



5.SE09



6.SE19



7.SE12



1.10T(西より)



2.10T



3.13T(西より)



4.8T



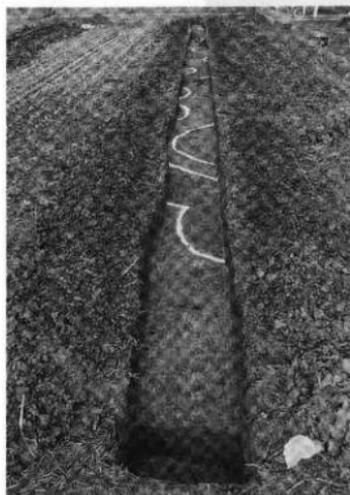
5.9T



1. 清水堂D遺跡



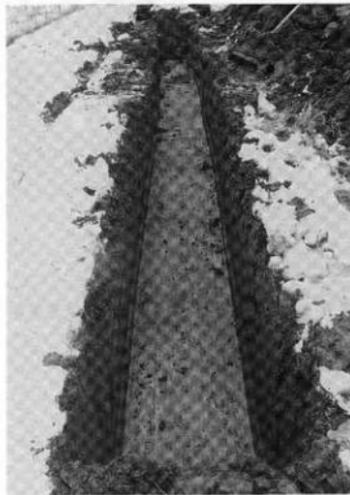
2. 清水堂D遺跡 (3T)



4. 清水堂D遺跡 (2T)



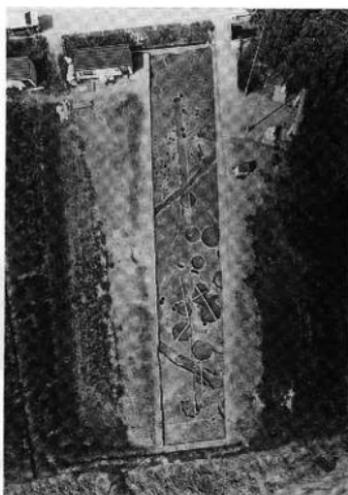
3. 清水堂D遺跡 (19T)



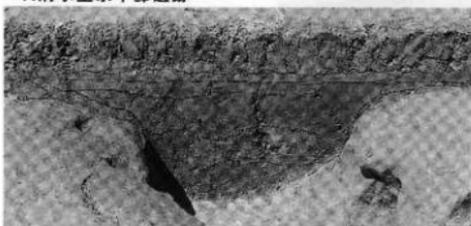
4. 清水堂小深田遺跡



1. 清水堂宗平邸遺跡



3. 清水堂D遺跡全景



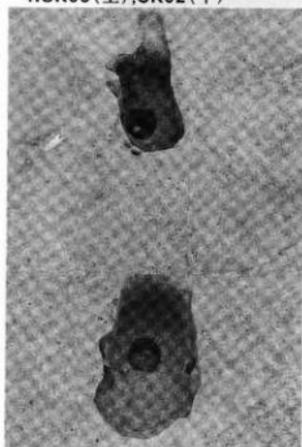
2. 清水堂D遺跡(SD01壁)



4. SK06(上),SK02(下)



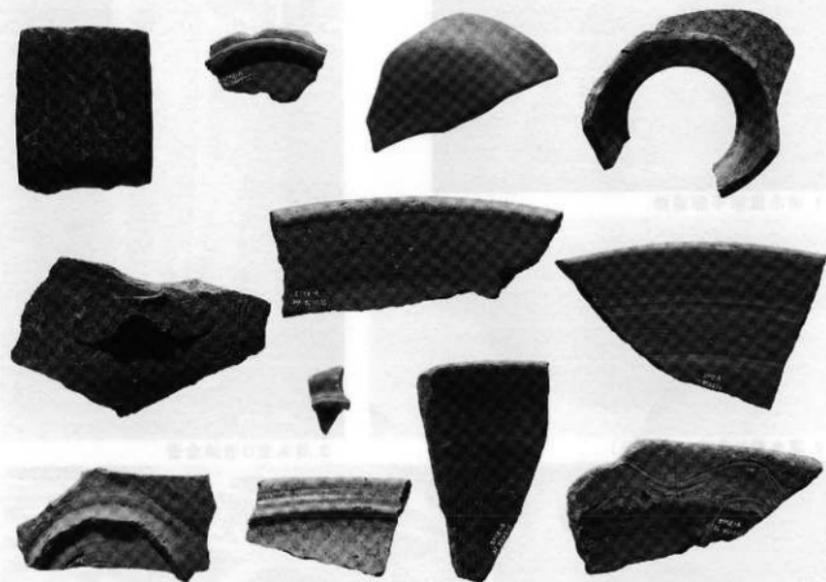
6. SK03,15,16,08



5. 柱穴



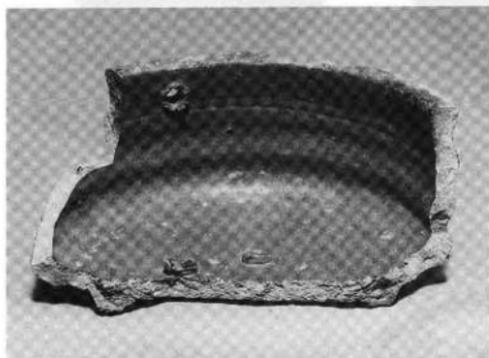
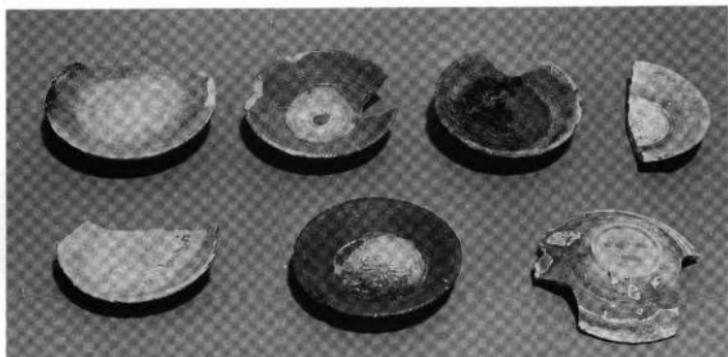
7. 土坑群(北より)

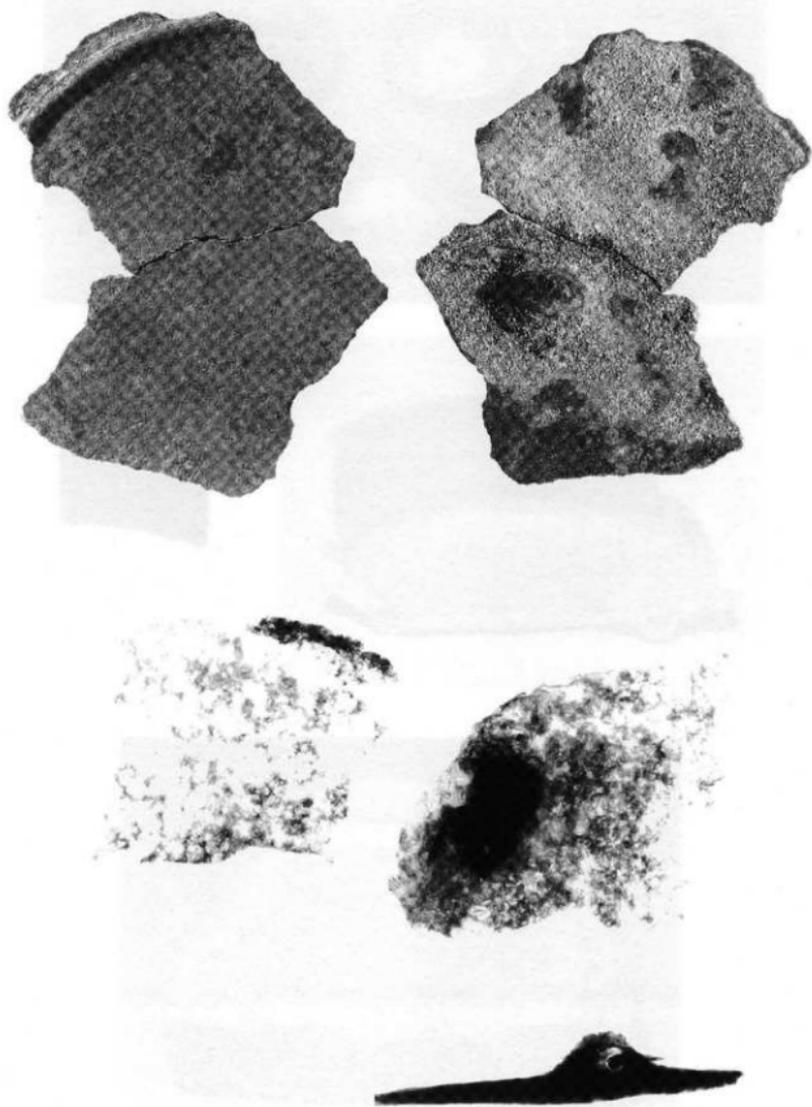


清水堂A遺跡発掘調査



清水堂D遺跡試掘調査

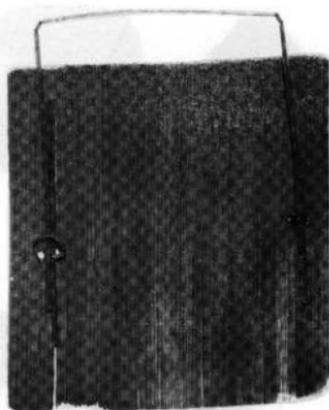




清水堂C遺跡SE21出土鉄鏡



5



11



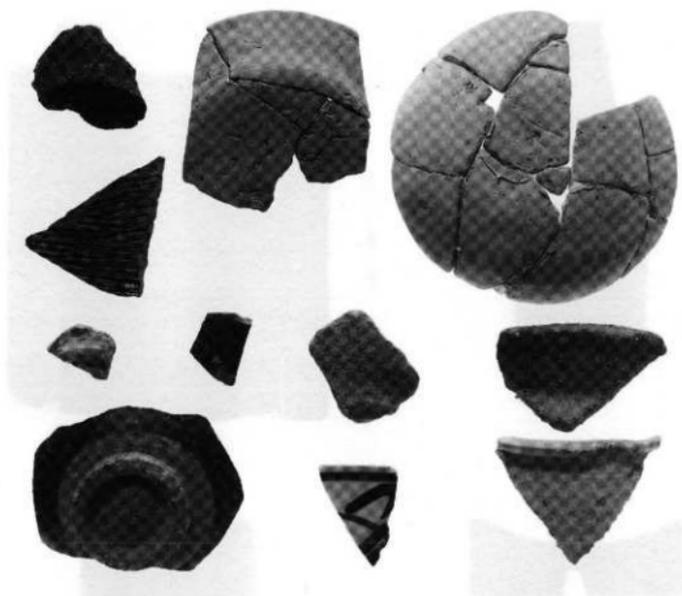
2



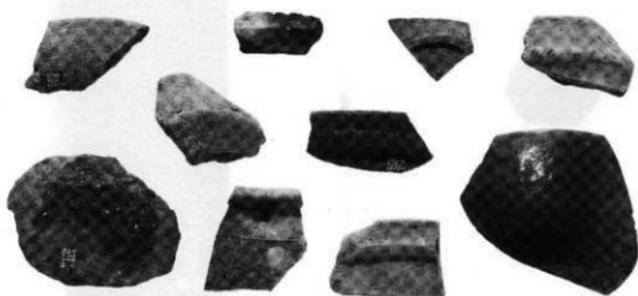
3



7



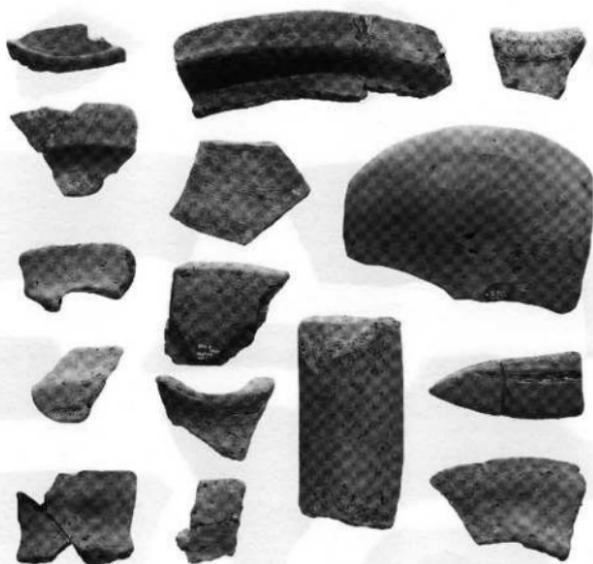
溝出土遺物



小穴出土遺物



土坑出土遺物



土坑出土遺物



SK26



清水堂D遺跡発掘調査

# 報告書抄録

書名	富山市水橋 清水堂A遺跡 清水堂C遺跡 清水堂B遺跡 清水堂D遺跡 清水堂小深田遺跡 清水堂宗平邸遺跡								
シリーズ名	県営低コスト化水田農業大区ほ場整備事業(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要								
シリーズ番号	(1)								
編著者名	鹿島昌也								
編集機関	富山市教育委員会								
所在地	〒930 富山県富山市新桜町7番38号 TEL0764-43-2138								
発行年月日	西暦1996年3月29日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市	町村	道路番号	°	'	(m)		
しみずどう 清水堂A遺跡	とやましむずほししみずどう 富山市水橋清水堂	16201		241	36度 42分 44秒	137度 18分 47秒	19950508 ～ 19950721	発掘 200	県営ほ場 整備事業
しみずどう 清水堂C遺跡	とやましむずほししみずどう 富山市水橋清水堂	16201		244	36度 42分 34秒	137度 18分 48秒	19950508 ～ 19950721	発掘 250	同 上
しみずどう 清水堂B遺跡	とやましむずほししみずどう 富山市水橋清水堂	16201		242	36度 42分 43秒	137度 18分 56秒	19951220 ～ 19960129	試掘5,000	同 上
しみずどう 清水堂D遺跡	とやましむずほししみずどう 富山市水橋清水堂	16201		245	36度 42分 34秒	137度 19分 06秒	19951220 ～ 19960120	試掘4,000 発掘 600	同 上
しみずどうこふた 清水堂小深田遺跡	とやましむずほししみずどう 富山市水橋清水堂	16201		247	36度 42分 42秒	137度 19分 03秒	19951223 ～ 19960122	試掘4,000	同 上
しみずどうそうてい 清水堂宗平邸遺跡	とやましむずほししみずどう 富山市水橋清水堂	16201		246	36度 42分 34秒	137度 18分 59秒	19951223 ～ 19960120	発掘 50	同 上
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
清水堂A遺跡	集落跡	弥生、中世、近世	溝、土坑	石斧、須恵器、珠洲焼、青磁、越中瀬戸焼			集落の縁辺部		
清水堂C遺跡	集落跡	弥生、中世、近世	井戸、穴、溝	弥生土器、須恵器、磁器陶器、土師質土器、越中瀬戸焼、越前焼、珠洲焼、青磁、鉄鏡、漆塗木製品、木葉、種子			井戸跡多数検出、中世～近世にかけての集落跡		
清水堂B遺跡	古集落跡	弥生、古墳、中世近世	周溝、穴、溝	弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼			清水堂古墳の周溝検出、中世遺構の削平受ける		
清水堂D遺跡	集落跡	弥生、中世、近世	土坑、溝、小穴、掘立柱建物	弥生土器、土師器、珠洲焼、近世陶磁器			弥生時代の集落跡		
清水堂小深田遺跡	集落跡	中世、近世	溝	珠洲焼、近世陶磁器			中～近世集落の縁辺部		
清水堂宗平邸遺跡	集落跡	古代	溝、穴	土師器			古代の溝跡		



調査参加者

県営低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業  
(清水堂地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(1)

## 富山市 水橋

清水堂A遺跡 清水堂C遺跡 清水堂B遺跡 清水堂D遺跡  
清水堂小深田遺跡 清水堂宗平邸遺跡

編集・発行 富山市教育委員会  
富山市新桜町7番38号  
発行日 1996年3月29日